

BANGLADESH

Road to ダッカ大学

## 20歳の社会起業入門!

落ちこぼれ高校生が、自分の可能性を信じて東京大学合格を目指す  
あの人気漫画『ドラゴン桜』。僕はいま、アジアの片隅であのドラマを実現する。

文：税所篤快 photographs：Akari Kuga



## Vol.1 ダッカ大学への道が、今、始まった。

舞台は、アジア最貧国・バングラデシュ。

日本でいう東京大学にあたるダッカ大学を目指すのは、田舎の高校3年生20名。彼らはいわゆる「BOP」（貧困層）の家庭の子どもたちだ。確かに家は貧しいが、「国で一番の大学で学びたい!」と学問への思いは強い。

彼らが学ぶ「予備校」は、村のはず



れの空き家だ。そこには、日本から寄付された中古PCが並んでいる。スイッチを入れると、画面にはバングラデシュ有数の講師が現れて授業を始める。生徒たちは目を輝かせて、ノートを開く……。

すべての始まりは、どうしてもない17歳の落ちこぼれの自分。居眠

り、サボり、早弁、赤点多数、学年順位最下位。そんな僕が出合った予備校、「東進ハイスクール」。そして、初めて教室に入った時の戸惑い。「え……、先生がいない……」。先生たちが授業を行うのは、テレビ画面の向こう側だった。それを見て僕は勉強する。録画映像だから、いつでも何回でも、最高レベルの先生による授業を受講できる。この方法でどん底から一転、僕は早稲田大学に合格した。

入学後はそんな経験も忘れ、下北沢で失恋しており、一冊の本『グラミン銀行を知っていますか』に出会った。社会企業家、ムハマド・ユヌス博士について書かれた本だ。ユヌス博士に憧れ、バングラデシュ・グラミン銀行の下で修業を始めることになった。修業とは、農村部の調査。農村部の統計データを集め、データベース化してウェブにアップする作業だ。村では、何度となくこんな言葉を耳にした。「先・生・が・足・り・な・い」。この国は、4万人という深刻な数の教師不足に悩まされている。

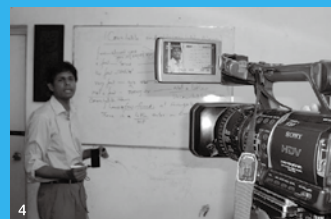
バングラデシュの蒸し暑さに眠れぬある日の真夜中、僕はとんでもないことを思いついた。「あー、東進のモ

デルを使えば、この先生不足を解消できるんじゃ?」

それから9か月経った2010年6月——空き家でPCに向かう、高校3年生たち。授業が始まると、どよめきが起る。「おい……あの英語のザハン先生だぜ……」。画面に現れたのはこの国で1、2位を争う有名な英語教師クドビ・ザハン先生だった。村の長老先生はぼそっとつぶやく。「It's revolution. こりゃ革命じゃ……」

4月に高校卒業を終え、11月第1週に迫るダッカ大学入学試験。わずか5か月だ。「貧困層の家庭では、絶対入学できない」というのが「常識」のダッカ大学。

果たして、世界を変えられるのか。今、僕の前で彼らが学んでいる。そのノートに書き綴るのは、シナリオのないチャレンジ。世界を驚かそう!



SIDE STREET 1

グラミン・ファミリー  
プロジェクト探訪

21世紀の課題。  
安全な水の確保 in バングラ。

水の国・バングラデシュには、「水」はあっても「安全な水」にアクセスできる人は限られている。農村部では汚染された井戸水を飲み、ヒ素中毒になるものも少なくない。そこで、フランスの水企業ヴェオリアがグラミン銀行と合併で、新たにソーシャルビジネスを立ち上げた。

合併会社「グラミン・ヴェオリア・ウォーター・カンパニー」は化学物質で川の水を浄化し、水道パイプで各村の給水所に届ける。給水所はグラミン銀行の女性スタッフが管理し、村人たちに配給・販売を行う。グラミン銀行で働く女性と、欧米企業の技術がコラボレーションして新たなビジネスを開発したのである。事業はスタートしたばかり。採算などの課題は抱えているが、自分たちの専門分野ではない水問題にさえ食欲に挑戦するユヌス博士。僕が日本のみなさんに伝えたいのは、博士率いる「グラミン・ファミリー」の、貧困撲滅への「挑戦すること」を恐れない、アグレッシブさなのだ。

SIDE STREET 2

税所クンの  
バングラ日記

ここは最貧国、  
それなのに予備校が大繁盛!

この国に来て最も驚いたことが、ここには東京・御茶ノ水のように予備校が林立する街があり、さらには「代々木ゼミナール」「河合塾」のような大手予備校が溢れていること。それどころか、偏差値が最高レベルのダッカ大学とすると、90%以上の入学者がこれら予備校出身の学生。つまり予備校に通える裕福な家庭に生まれた子どもばかりだということ!

うーん……。どう考えても、予備校に通う余裕のない村の子どもたちはスタートラインが違っている。それってどうなんだろう。この疑問が、「ドラゴン桜」の始まりでした!

1. 首都ダッカから8時間離れた農村部。プロジェクト一期生・計20名の高校3年生が自分の可能性にチャレンジする。2. 生まれて初めて、パソコンで授業を受講する生徒たち。受験まであと5か月だ。3. 「パソコンに、先生が出てきたんだ!」と、村の子どもたちもびっくり。4. 首都ダッカでの授業撮影収録。この国で最高峰の先生たちが集まった。

## さいしょ・あつよし

早稲田大学教育学部3年(現在、休学中)。バングラデシュ・ダッカ在住。バングラデシュ版ドラゴン桜「Education Project」代表。20歳でグラミン銀行グループ初の日本人コーディネーターに就任。同年、最年少でのプロジェクトを立ち上げる。Twitter アカウント: AtsuyoshiGCC